

日本聖公会 川越基督教会

資料委員会 便り

ARCHIVES NEWS

号外 特別号

(2017年 1月)

資料保管委員会の作業も順調に進んでいます。「資料目録」作り、「資料スキャン取込み」共に最終段階に入りました。続いて別倉庫に保管されていた第2資料の整理も今年の作業となります。

今号の「資料委員会便り」は、委員会メンバーのドウエル兄のクリスマスメッセージを特集してみました。ドウエル兄は北米日時計学会のメンバーで日照学に造詣深い方です。裏ページの写真と併せてお読みください。



キリストの降誕により、世の光が現れてきた

パウロ・ドウエル・ベერი

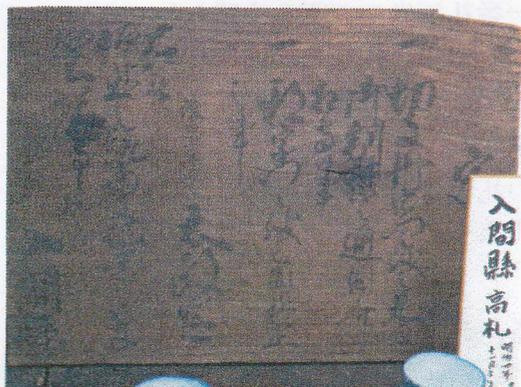
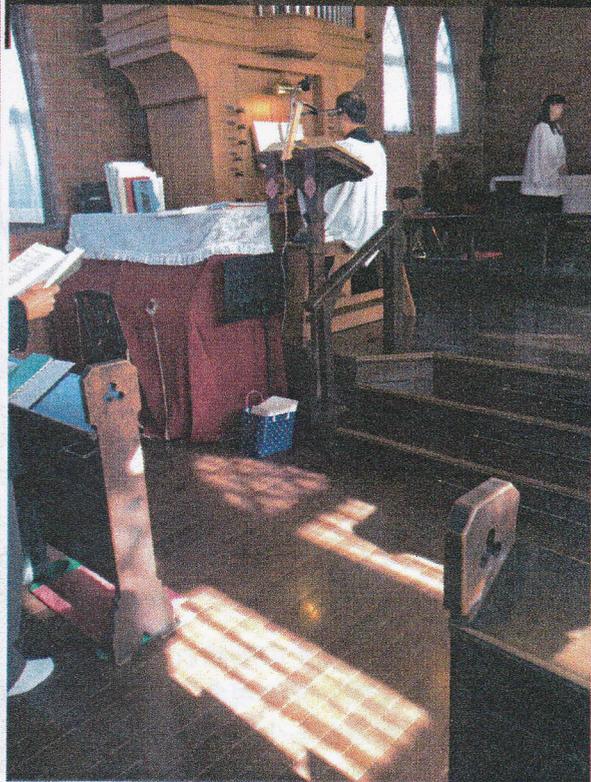
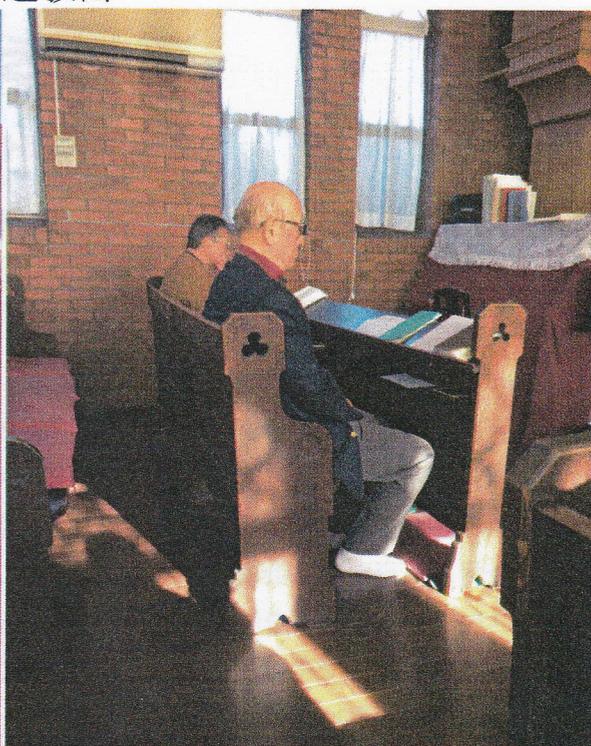
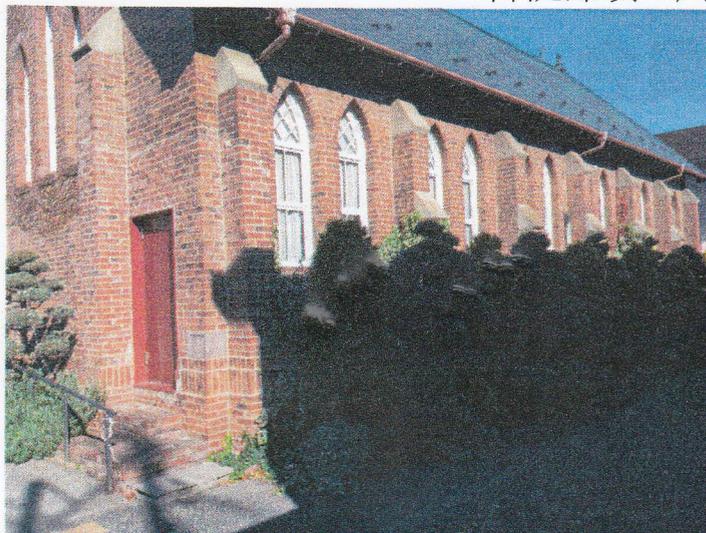
12月になると、礼拝堂や牧師館に素敵なクリスマスの飾りがかけられる。礼拝堂の奥にはキリストの降誕を現すお人形も設置される。クリスマスの頃は一年のうちで昼間が一番短い冬至の季節だ。キリストの降誕がいつだったのかという記録は現存せず、クリスマスはその死より数百年後に決められたものである。なぜ12月25日になったのか、いくつかの説がある。昔から人間は冬至に関心があり、これから昼が長くなるようにと願う行事が色々あったようである。クリスマスに馴染みやすくなるようにと、同じ冬至の頃の日付を選んだという説もある。

川越の気候はその頃晴れの日が多く、礼拝堂の方角も適切なおかげでクリスマスの頃に興味深い光の現象が起こる。日曜日の午前10:30からの礼拝中、太陽の光は礼拝堂の南窓から少しずつ差し込んでくる。その光が北側の壁まで届くかどうかという頃、温かい気持ちが湧いてくるのである。

クリスマスの頃の太陽の光は、他の季節よりも一番礼拝堂内を明るく照らしてくれる。お人形も太陽の光で輝く。昼間の時間は最も短い、この現象はこれから日が長くなるということを予言してくれているのである。

以上の現象を考えてみると、クリスマスは一年の一番暗い時期にキリストが降誕されたことを祝うが、その頃の川越キリスト教会の礼拝堂の場合は、珍しく最も明るい時期である。キリストの降誕により世の中が明るくなろうとする兆である、と解釈しよう。

イエスは再び言われた。「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。」ヨハネ 8:12



舟運亭戸田製麺 蔵

古文書勉強会を開催

資料委員会では、12月に古文書勉強会を開催しました。「切支丹禁令の高札を読む」として、数名の参加者のもと勉強会となり、最終日には川越市立博物館を訪問し、学芸員の方より、高札の実物を見ながら解説をいただきました。なお勉強会の詳細は次号に掲載予定。